

# 医療ニーズ発表会

参加費  
無料

日時 **12月13日(木) 14:00~16:40** 定員 **80名**

場所 **秋田赤十字病院 2階 多目的ホール**

(秋田市上北手猿田字苗代沢222-1)

秋田県では、医療機関の医療者と医療機器メーカー、ものづくり企業との連携による医療機器開発を目的に、秋田赤十字病院のご協力のもと、医療ニーズ発表会を開催いたします。

秋田赤十字病院の医療スタッフの皆様から医療機器に係る医療ニーズを発表いただきます。医療機器メーカー、ものづくり企業の皆様の参加をお待ちしております。



## プログラム

- 14:00 開会挨拶
- 14:10 イントロダクション
- 14:20 臨床ニーズ発表 (20件を予定)
- 16:10 医療スタッフとの名刺交換、情報交換  
秋田県内企業による展示見学
- 16:40 終了

※ご参加の皆様には、「秘密保持に関する申し合わせ」をご提出いただきます。

### <参加申込書>

企業名	住所	TEL FAX
氏名	所属・役職	E-MAIL
氏名	所属・役職	E-MAIL

**お申込方法** 参加申込書を平成30年12月6日17時までメールまたはFAXでお送りください。  
(お申込先) **メール** [entry@j-ikou.com](mailto:entry@j-ikou.com) / **FAX** **03-5615-9702**

### お問い合わせ先

株式会社日本医工研究所【事業委託会社】  
担当：師田(もろた)、中須賀  
TEL：03-5615-9700 (平日 9時-18時)

秋田県産業労働部地域産業振興課 技術振興班  
担当：品田  
TEL：018-860-2246

# 医療ニーズ一覧

番号	所属	テーマ、臨床現場の現状と問題点
1	救命救急センター	<b>自走ロボットによる物品搬送システム</b> おそらくすでに商品化されているものは多いと思うが、エレベーターと連動し、エレベーターも独自で使用して異なる階の部署まで物品を運べると業務の省力化が進む。GPS機能が付くので盗難防止にもなり、便利だとは思。人とぶつからないように衝突回避装置もほしい。
2	救命救急センター	<b>経皮的循環補助装置(PCPS)における流量自動制御システム</b> PCPSは重症心不全(循環不全)の病態に対し一時的に循環補助を行うデバイスとして活用されている。一般的には大腿静脈から下大静脈若しくは右心房まで挿入したカテーテルから脱血を行い、人口肺で酸素化された血液を大腿動脈から腸骨動脈まで挿入したカテーテルから遠心ポンプを用いて返血する。遠心ポンプの回転数と返血流量は様々な要因で並行的に調整されることなく、通常回転数で設定されている。心不全の改善に伴い、様々な心不全評価を行いながら、流量補助を減らし最終的には停止から離脱へと進む。心機能(循環状態)をリアルタイムに評価しながら自動的にPCPSの循環補助を制御できるシステムにより、PCPSを用いた重症循環不全管理を容易にすることが期待される。一般的に中心静脈血酸素飽和度は全身の循環動態を反映すると言われ、全身の酸素需要に対する酸素供給量を反映する。一定値以上の中心静脈血酸素飽和度を維持することは、補助循環治療中の臓器保護に重要であり、一定値以上を維持するよう流量コントロールできるシステムが望まれる。
3	緩和ケア内科	<b>生体情報をスマホ等でリアルタイムに観察できる機器と救急外来受診者の受診情報をリアルタイムで把握できる機器</b> 個人情報に配慮しながら、心電図モニターや酸素飽和度の情報を個人の端末(スマホ)等でリアルタイムに観察可能な機器と、救急外来受診者の受診情報(カルテ記載内容、検査データ)をリアルタイムに把握できる機器があれば、日常業務のなかで最も負担が大きい看取りと救急当番の待機状態について心理的な負担が大幅に軽減される。類似の機能を持ったシステムは存在するが、汎用性が高く、安価な機器がほしい。
4	リハビリテーション科	<b>酸素ボンベ(架台)および点滴が装着できる歩行器</b> 酸素ボンベを必要とする患者の術後歩行練習などの際、酸素ボンベおよび点滴が歩行器に装着できれば、介助の際の人員が削減(複数介助でなくてすむ)でき、また、介助の際のリスク管理(転倒の防止)が行い易くなる。
5	医療技術部	<b>心電図モニタ送信機のカバーあるいはケース</b> 送信機の落下等による破損が多く起きている。スマホカバーあるいはケースのように、保護していれば破損しにくい(衝撃吸収できるもの)。
6	医療技術部	<b>点滴バックの残液を廃棄するためのカッターのようなもの</b> 流しなどに固定でき簡単にバックを開封できるもの。薬剤による腐食もなく、水洗いできるもの。ハサミは錆びてしまい、硬めのバックだと開封が困難。プラスチックごみのコスト削減につながる。
7	医療技術部・6B病棟	<b>ベッド上で簡易的に体重測定できるもの、寝たまま身長測定できるもの</b> 透析時に患者の体重を測定する場合、スケールベッドに移動させなければならない。また、寝たきりの患者の身長測定時に、メジャーで測定しているが正確に測定できていない。ベッド上にシート(パッド)のようなもので簡単に測定できると良い。
8	看護部	<b>床上排泄時に臭気をキャッチしてナースコールに連動するセンサー</b> 床上で排泄する患者は自分で気づけないことも多く、排泄物が交換されないと褥瘡形成につながる。
9	救急外来	<b>無線12誘導心電計</b> 心電図検査が多く、線があると不便でとづらいことがある。無線の場合早く簡単でいい。
10	産科病棟	<b>分娩監視装置のトランスデューサー</b> 妊婦のお腹にベルトを巻いて固定しているが、動きたびずれるので大変。モニターセンサーのゲルパッドのようなシールで貼り付け可能になってほしい。
11	新生児病棟	<b>点滴を作ってくれるロボット</b> 点滴準備に時間を要している。
12	5A病棟	<b>コードのない転倒ムシ</b> 現在の転倒ムシは、ヒモでつながっており、患者の可動範囲が狭く、自由度が少ない。ヒモの代わりに、無線タイプで50cm離れたら鳴ると良い。
13	5B病棟	<b>自動で身長・体重を測定してくれるベッド</b> 整形で下肢牽引中に体重測定のためベッドを移動するのが痛そうなので、身長はメジャーで測定しておりおおよその測定となっている。
14	ICU・HCU・7HCU	<b>家族がベッドサイドに付き添っている(語りかける)プロジェクションマッピング</b> 壁に映し出せると良い。
15	医療社会事業部	<b>ドクターヘリ安全管理時に人の配置なしで誘導できるもの</b> ドクターヘリ離着陸時に、事務や警備のスタッフが駆けつけて来院者を安全なルートへ誘導する業務を行っている。ときに、人手が不足する場面や休日等でそもそも人手が足りない場面があるので、人に代わるものがあると良い。
16	医療社会事業部	<b>災害時の医療携帯バッグ</b> 災害時の医療携行バッグは結構な重量になる。基本的には、キャリアバッグ式が主流だが、瓦礫の上や段差に弱く、看護師等は取り扱いに難渋する。キャリアバッグに代わるような資器材搬送方法があれば良い。
17	医療社会事業部	<b>災害時の医療従事者用グローブ</b> 災害時、瓦礫のなかを進むため厚手のグローブは必須である。しかし、医療行為をする際など、細かな作業時には薄手のゴム手袋が良いため、用途に応じて取り替えているが煩雑である。
18	栄養課	<b>無人の自動運転配膳車</b> 給食委託会社の慢性的な人員不足があり、運搬業務を軽減したい。病棟や保育園へ配膳車を運搬時に壁やドアに衝突し、配膳車や壁を壊すことが度々ある。行き先を指定して無人で自動運転し、衝突を回避する自動ブレーキを内蔵した配膳車があると良い。
19	検査部	<b>採血時の腕枕カバー</b> 採血時の腕枕カバーとしてPRクロスガーゼ(200枚入)を1日あたり30枚くらい使用している。腕枕カバーはセロテープで着けている。検診用ロールシートタイプで袋状のものがあつたらテープの接着作業が不要となり、簡便になる。
20	薬剤部	<b>0.1mLまで正確に計り取れるスポイト、シリンジ</b> 新生児の処方量は微量であり、2段階希釈などして指示量を計っている。1回の操作で計れる方が、間違いが少なくて良い。